

# 岩手県滝沢森林公園のシダ植物

金子与止男\*・高橋宜子\*

**要 旨** 岩手県岩手郡滝沢村に位置する岩手県滝沢森林公園でシダ植物相とその生育状況の調査をおこなった。その結果、43種のシダ植物を確認することができた。このうち20種が新たに記録された種であった。今回の調査では確認できなかったが、すでに記録されている種がこのほかに2種あり、それを加えると、岩手県滝沢森林公園では少なくとも45種のシダ植物が記録されたことになる。岩手県内で稀とされている種で今回の調査で出現したのは、クラマゴケ、ヒロハハナヤスリ、ナガホノナツノハナワラビ、ヤブソテツ、タニヘゴ、オクマワラビ、エゾメシダ、ミヤマノキシノブの8種であった。植被率と出現頻度から、岩手県滝沢森林公園の代表的シダ植物は、オシダ、ヤマイヌワラビ、ジュウモンジシダ、ゼンマイ、サカゲイノデ、ホソバナライシダなどであることが明らかになった。立地環境との関係を見ると、沢沿いの湿潤な環境にシダ植物が多かった。

**キーワード** 滝沢森林公園、シダ植物、フロラリスト、生育状況

## 1. はじめに

シダ植物は裸子植物・被子植物とともに維管束植物に分類され、後二者が繁殖器官として花をつけるのに対し、シダ植物は孢子で繁殖する分類群である。シダ植物は花をつけないこともあり、あまり人目を引く植物ではない。しかし、シダ植物にはワラビ、ゼンマイ、クサソテツ（こごみ）など山菜としてよく知られている種もあり、またベニシダやトクサ、イワヒバなどは日本庭園の造園材料としても重宝がられ、意外と身近な存在でもある。

維管束植物は高等植物として扱われ、植生調査や植物相（フロラ）調査においては、シダ植物は裸子植物・被子植物とともに調査対象となることが多い。岩手県立大学に隣接する岩手県滝沢森林公園の植物相に関する調査研究としては、岩手県盛岡農林事務所（1983）と平塚ほか（2004）があり、植物相全般に触れたなかで、森林公園に生育しているシダ植物の種名を記載している。しかし、いずれも種名目録のみであり、シダ植物の生育状

況などに言及したものではない。

筆者らは、2010年7月～11月を中心に岩手県立大学に隣接する岩手県滝沢森林公園で、シダ植物の調査をおこなった。その結果、新たに20種の未記録種を確認した。本稿では、岩手県滝沢森林公園のシダ植物相、量的多さ、面的拡がり、立地環境との関係を報告する。

## 2. 調査地

調査地は岩手県滝沢村の巣子・砂込地内に位置する岩手県滝沢森林公園である。森林公園は面積62 haで、そのうち17 haが野鳥観察の森となっている。森林公園内を舗装車道が貫いており、北側が野鳥観察の森である。本論文では、車道を挟んで南側の地域を狭義の森林公園と呼び、野鳥観察の森と区別することにする。狭義の森林公園と野鳥観察の森の両者を含めて指す場合は、森林公園全体という表現を使用する。標高は235 mから260 mの範囲にある。また、野鳥観察の森の東側にはIGRいわて銀河鉄道所有の約2 haの防

\* 岩手県立大学総合政策学部 〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52

雪林があり、そこも調査対象とした。帯状の形状をしているこの防雪林は野鳥観察の森に隣接していることから、野鳥観察の森の一部として扱うこととする。

狭義の森林公園内にはふたつの沢がほぼ西から東方向に走っており、起伏がある。便宜的に県立大学に近い沢を南沢、遠い沢を北沢と呼ぶことにする。いずれも川幅1m以下の細流である。南沢は小規模な氾濫原が見られ、湿地状の場所が多い。北沢は南沢に比べ、より深く浸食されており、川の両岸は比較的乾燥している。一方、野鳥観察の森の地形はほぼ平坦で、沢は存在しない。岩手県盛岡農林事務所(1983)によると、土壌は台地と斜面が適潤性黒色土、沢筋が泥炭土である。森林公園の植生は大きく分けると草地、アカマツ林、スギ林、カラマツ林、コナラ林、オオヤマザクラやツツジなどの植栽地などからなり、野鳥観察の森は針広混交林でアカマツやコナラが優占する。沢ぞいの湿性では、オニグルミ、キタコブシ、ハンノキ、ホオノキ、ミズキ、カシワなどが混交する。なお、草地のほとんどは、丈低の草地として維持するため定期的に刈り払いが実施されている。林内の散策道の両側の一定範囲も灌木や草本が伐採されている場所もあり、見通しが利くようになっている。

岩手県立大学に隣接する岩手県滝沢森林公園に生育するシダ植物は、同森林公園の植物相を扱った岩手県盛岡農林事務所(1983)と平塚ほか(2004)による報告のなかで言及されている。岩手県盛岡農林事務所(1983)は23種、平塚ほか(2004)は24種のシダ植物を報告している。

### 3. 調査方法

森林公園と野鳥観察の森を歩き、シダ植物が生育している地点に5m×5mの方形区を設置し、そこに出現したシダ植物の種名と種別植被率を記録した。方形区の数合計157区画で、森林公園が127区画、野鳥観察の森が30区画である。

シダ植物には、オシダのように独立した根茎を作る種や、クサソテツのように植物体が独立して

いるように見えても地中で走出枝で繋がっている種、ヒメシダのように根茎が横走る種もあるため、個体数で表現することはできない。そのため、量的多さは植被率で表した。なお、植被率1%未満の場合は、便宜上すべて1%に切り上げて計算した。

シダ植物の生育状況と林相および生育環境の関係を把握するために、林相の異なる場所に10本の調査ラインを設定した(図1)。調査ライン沿いに5m×5mの方形区が連なる形である。方形区の合計は440個である。各方形区に出現したシダ植物の種名と植被率を記録した。

これらの調査は、2010年7~11月におこなったが、筆者のひとりである金子による2006年から2012年までのシダ植物相に関する断片的観察結果も以下の記述に含めてある。



図1 調査ラインの位置

## 4. 結果と考察

### (1) 出現シダ植物

今回の調査の結果、43種のシダ植物を確認した(表1)。新たに記録されたシダ植物は、クラマゴケ、ヒロハハナヤスリ、ナツノハナワラビ、ナガホノナツノハナワラビ、トラノオシダ、ヤブソテツ、ホソバナライシダ、ミヤマベニシダ、オクマワラビ、ミヤマイトチシダ、ヤマイトチシダ、ハリガネワラビ、エゾメシダ、サトメシダ、イッポンワラビ、ハクモウイノデ、シケシダ、キヨタ

表 1 岩手県滝沢森林公園のシダ植物

		滝沢森林公園			滝沢村全域	FER 記述	FLO 記述
		岩手県	平塚ほか	本研究	滝沢村	鈴木	岩手植物の会
		1983	2004	2013	2006	1993	1970
ヒカゲノカズラ科	ホソバトウゲシバ	○	○	○	○	やや稀	
イワヒバ科	クラマゴケ			●		稀	ごくまれ
トクサ科	スギナ	○	○	○	○	普通	
	イヌスギナ	○	○			稀	やや普通
	トクサ		○	○	○		やや普通
ハナヤスリ科	ヒロハハナヤスリ			●		やや稀	ややまれ
	フユノハナワラビ	○	○	○	○	やや稀	普通
	ナツノハナワラビ			●	○	やや稀	やや普通
	ナガホノナツノハナワラビ			●		やや稀	ややまれ
ゼンマイ科	ゼンマイ	○	○	○	○	普通	極めて普通
	ヤマドリゼンマイ	○	○	○	○	普通	
コバノイシカグマ科	オウレンシダ	○	○	○	○	普通	普通
	ワラビ	○	○	○	○	普通	ごく普通
チャセンシダ科	コタニワタリ	○				普通	普通
	トラノオシダ			●	○	普通	極めて普通
シシガシラ科	シシガシラ	○	○	○	○	普通	ごく普通
オシダ科	ヤブソテツ			●		やや稀	ややまれ
	ジュウモンジシダ	○	○	○	○	普通	ごく普遍的
	サカゲイノデ	○	○	○	○	普通	
	ホソバナライシダ			●	○	普通	普通
	リョウメンシダ	○	○	○	○	普通	普通
	タニヘゴ	○	○	○	○	やや稀	ややまれ
	ミヤマベニシダ			●		普通	極めて普通
	オシダ	○	○	○	○		普通
	オクマワラビ			●		やや稀	まれ
	ミヤマイトチシダ			●	○	普通	やや普通
	ヤマイトチシダ			●	○	稀	普通
ヒメシダ科	ミゾシダ	○	○	○	○	普通	普通
	ヒメシダ	○	○	○	○	普通	ごく普通
	ハリガネワラビ			●		やや稀	やや普通
イワデンダ科	クサソテツ	○	○	○	○	普通	ごく普通
	イヌガンソク	○	○	○	○	普通	普通
	コウヤワラビ	○	○	○	○	普通	極めて普通
	ヘビノネゴザ	○	○	○	○	稀	普通
	エゾメシダ			●	○	稀	まれ
	サトメシダ			●	○	普通	普通
	ヤマイヌワラビ		○	○	○	普通	普通
	イヌワラビ	○	○	○		普通	普通
	イッポンワラビ			●		普通	ややまれ
	ハクモウイノデ			●	○	稀	普通
	ホソバシケシダ	○	○	○	○	普通	普通
	シケシダ			●	○	普通	普通
	キョタキシダ			●	○	やや稀	やや普通
ウラボシ科	ミヤマノキシノブ			●		やや稀	ややまれ
	オシャゲジデンド			●		やや稀	
	種数	23	24	43	40		

注 1) ●は岩手県滝沢森林公園で本研究により新たに記録された種

注 2) 岩手県内の生育状況。FER：鈴木實（1993）岩手県のシダ植物、FLO：岩手植物の会（1970）岩手県植物誌

キシダ、ミヤマノキシノブ、オシヤグジデンドの20種であった。これら20種については、巻末に写真を示した。

一方、岩手県盛岡農林事務所(1983)もしくは平塚ほか(2004)には記載があるが、今回の調査では確認できなかったのは、イヌスギナとコタニワタリ(2種)であった。したがって、この2種を含めると、森林公園全体ではシダ植物45種が確認されたことになる。

岩手県のシダ植物については、岩手県(2001)は149種、鈴木(1993)は158種(雑種を除く)、岩手植物の会(1970)は135種を報告している。調査地が位置する滝沢村全域については、滝沢村教育委員会(2006)が滝沢村の植物相を扱ったなかで40種のシダ植物を記載している。滝沢村教育委員会(2006)が記載していないシダ植物で今回の調査で新たに確認したものは、クラマゴケ、ヒロハハナヤスリ、ナガホノナツノハナワラビ、ヤブソテツ、ミヤマベニシダ、オクマワラビ、ハリガネワラビ、イヌワラビ、イッポンワラビ、ミヤマノキシノブ、オシヤグジデンドの11種であった。鈴木(1993)と岩手植物の会(1970)はおおまかではあるが、普通に見られるか、稀であるかといった生育状況も記している。両者ともごく稀、稀あるいはやや稀としたシダ植物で今回の調査で確認した種は、クラマゴケ、ヒロハハナヤスリ、ナガホノナツノハナワラビ、ヤブソテツ、タニヘゴ、オクマワラビ、エゾメシダ、ミヤマノキシノブの8種であった。また、いずれか一方だけがごく稀、稀あるいはやや稀とした種は、ホソバトウゲシバ、フユノハナワラビ、ナツノハナワラビ、ヤマイトチシダ、ハリガネワラビ、ヘビノネゴザ、イッポンワラビ、ハクモウイノデ、キョタキシダ、オシヤグジデンドの10種であった。

## (2) シダ植物の植被率と出現頻度

植被率を調査した157区画での平均植被率で見ると、もっとも多かったのがオシダで(4.38%)、続いてトクサ(1.12%)、ジュウモンジシダ(1.05%)、ゼンマイ(0.99%)、ミゾシダ(0.64%)、

サカゲイノデ(0.63%)、ヤマドリゼンマイ(0.59%)の順であった。このなかで、トクサは野鳥観察の森の一部に密生して生えており、分布が偏っていた。したがって、森林公園全体としては代表的なシダ植物ではない。

出現頻度のもっとも高かったのはオシダであった。157区画のうち45区画(28.7%)で出現した。オシダのほかに出現頻度が高かったのは、ヤマイトワラビ(35区画、22.3%)、ゼンマイ(34区画、21.7%)、ジュウモンジシダ(32区画、20.4%)、サカゲイノデ(27区画、17.2%)、ホソバナライシダ(27区画、17.2%)、ヘビノネゴザ(24区画、15.3%)であった。

図2は、出現シダ植物の植被率と出現頻度の関係を示している。オシダは出現頻度および植被率ともにほかの種よりも高く、森林公園全体のもっとも代表的なシダ植物であると言ってよい。ヤマイトワラビ、ジュウモンジシダ、ゼンマイ、サカゲイノデ、ホソバナライシダもよく目につくシダ植物である。

## (3) シダ植物と立地環境

表2は、調査ライン別にみた森林タイプ(林相)とシダ植物出現の状況を示している。全区画にシダ植物が出現した調査ラインは2本(No.8、9)であり、いずれも森林公園の湿潤地であった。No.8は沢沿いであり、ところどころに小規模氾濫原の様相を呈した湿地帯が形成されている。No.9は、地形は平坦であるが、斜面下方に位置し、地下水位が高い場所である。その次に出現頻度が高かったのはNo.10で、これも沢沿いである。No.10は北沢で、No.8の南沢と比べると、沢がより深く浸食されており、このため沢の周囲は比較的乾燥している。シダ植物には湿性地进行を好む種が多いことから、沢の地形とそれに伴う乾湿状況が影響して、No.8より出現頻度が低くなったものと思われる。一方、出現頻度がもっとも低かったのは野鳥観察の森のNo.4で、48区画中、2区画にしか出現しなかった。同じように出現頻度が低かったNo.2も野鳥観察の森内の調査ラインで

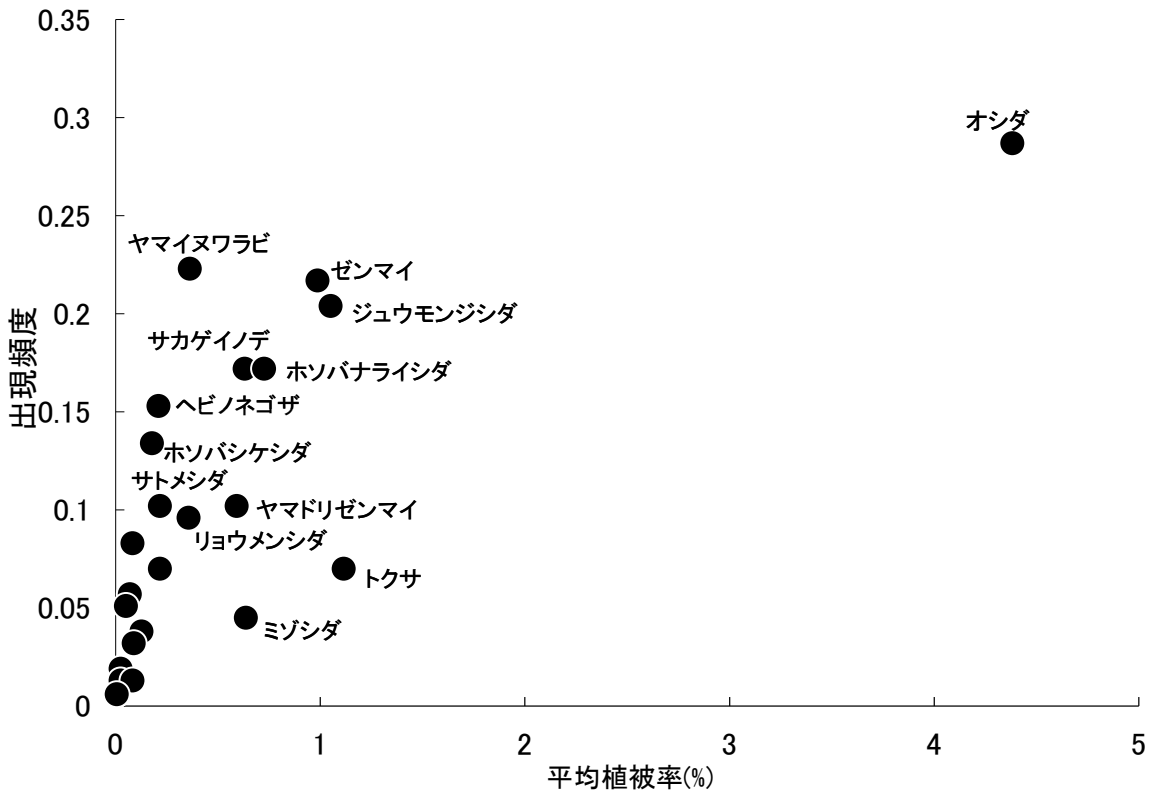


図2 出現シダ植物の植被率と出現頻度との関係

表2 調査ライン別にみた森林タイプとシダ植物出現の関係

No.	林相	特徴	調査 区画数	シダ出現 区画数	出現率 (%)	出現種数
野鳥観察 の森	1 オウシュウトウヒ林	鉄道防雪林。スギが混じる。暗い。 最優占種ホソバナライシダ。	57	30	52.6	13
	2 針広混交林	コナラ、アカマツ優占。乾燥。 最優占種サカゲイノデ。	50	9	18	7
	3 針広混交林	コナラ、アカマツ、カラマツ優占。 乾燥。最優占種トクサ。	50	19	38	9
	4 針広混交林	コナラ、アカマツ優占。乾燥。	48	2	4.2	2
森林公園	5 アカマツ林	斜面上部。乾燥。最優占種ホソ バナライシダ。	36	8	22.2	6
	6 針広混交林	コナラ、カラマツ優占。乾燥。	50	11	22	7
	7 広葉樹林	一部、北沢を横断。最優占種ゼ ンマイ。	50	15	30	11
	8 広葉樹林	南沢上流部。沢沿い。湿潤。湿 性地。最優占種ジュウモンジシダ。	45	45	100	17
	9 スギ・カラマツ林	湿潤。湿性地。暗い。最優占種 オシダ。	16	16	100	9
	10 広葉樹林	北沢上流部。沢沿い。最優占種 ゼンマイ。	38	30	78.9	15



ある。No.3はトクサが広範囲に密生している環境を含んでいることから、No.2およびNo.4と比べ、出現頻度が高くなっている。森林公園では、No.5、No.6、No.7ともに低い出現頻度を示したが、いずれも乾燥地であることによっている。次に出現種数をみると、もっとも多かったのがNo.8の17種であった。続いて、No.10(15種)、No.1(13種)、No.7(11種)の順であった。

#### (4) 岩手県滝沢森林公園シダ植物目録

##### 凡例

1. 配列および学名は岩槻(1992)に従った。
2. 目録中の略号は、FER: 岩手のシダ植物(鈴木實、1993)、FLO: 岩手県植物誌(岩手植物の会、1970)であり、岩手県でのおおまかな生育状況を表している。
3. 森林公園と記してあるのは、狭義の森林公園を表しており、野鳥観察の森と区別している。森林公園内には2本の沢が走っており、便宜的に北側の沢を北沢、南側の沢を南沢と呼ぶことにする。
4. 森林公園初記録とあるのは、野鳥観察の森を含む広義の意味であり、森林公園全体を指す。
5. 初記録の種については、巻末に写真を載せておいた。

#### ヒカゲノカズラ科 LYCOPODIACEAE

- 1 ホソバトウゲシバ *Lycopodium serratum* var. *serratum*  
防雪林で1か所、森林公園で1か所に生育しているのを確認した。防雪林では群生していた。常緑性。FER: やや稀

#### イワヒバ科 SELAGINELLACEAE

- 2 クラマゴケ *Selaginella remotifolia*  
2008年に、森林公園内の林縁で確認した。翌年、翌々年と同場所に行ったが、確認できなかった。2011年に県立大学と南沢の間で再発見した。林床に広範囲に群生している。常緑性。森林公園初

記録。FER: 稀 FLO: ごくまれ

#### トクサ科 EQUISETACEAE

##### 3 スギナ *Equisetum arvense*

日当りのよいところに多いが、南沢など湿性地上にも生える。極めて普通のシダ植物であるが、調査地内にはあまり多くない。夏緑性。FER: 普通 FLO: 極めて普通

##### 4 イヌスギナ *Equisetum palustre*

岩手県盛岡農林事務所(1983)と平塚ほか(2004)に記録がある。今回の調査では確認していない。日当たりのいい湿地に群生する。岩手県盛岡農林事務所(1983)によると、ハンノキ群落内に生育しているようである。夏緑性。FER: 稀 FLO: やや普通

##### 5 トクサ *Equisetum hyemale*

野鳥観察の森の限られたところに、かなり広く繁茂している。野鳥観察の森のトクサは、旧農林省毛皮獣養殖所職員住宅で生活用品利用(たわし)のため、昭和20年ころ北上川岸から移植、栽培したものが逸出したものだと言われている。森林公園にも少数であるが見られる。常緑性。鈴木(1993)にはトクサの記載がない。単なる記載もれであろう。FLO: やや普通

#### ハナヤスリ科 OPHIOGLOSSACEAE

##### 6 ヒロハハナヤスリ *Ophioglossum vulgatum*

森林公園内の林床に生育している。大きな群がりを3か所で確認したほか、林内に散見される。夏緑性。森林公園初記録。FER: やや稀 FLO: ややまれ

##### 7 フユノハナワラビ *Botrychium ternatum*

森林公園内の林下や草地、芝生地などに生育し、個体数も多い。エゾフユノハナワラビ *Botrychium multifidum* var. *robustum* と思われる個体もみられるが、精査が必要である。冬緑性。FER: やや稀 FLO: 普通

##### 8 ナツノハナワラビ *Botrychium virginianum*

森林公園の林下の広い範囲に生育している。野鳥

観察の森でも少数が見られる。夏緑性。森林公園初記録。FER：やや稀 FLO：やや普通

9 ナガホノナツノハナワラビ *Botrychium strictum*

県立大学と南沢の間の森林公園で、2011年7月8日に岩手県立大学総合政策学部生の松本成康君が採集した。2012年にも2個体を確認した。ナツノハナワラビと同じ夏緑性であるが、孢子葉の展開時期と孢子囊の成熟時期が大きく異なり、ナツノハナワラビの孢子葉が枯死・脱落后もナガホノナツノハナワラビの孢子囊が成熟していないことが多い。森林公園初記録。FER：やや稀 FLO：ややまれ

ゼンマイ科 OSMUNDACEAE

10 ゼンマイ *Osmunda japonica*

沢沿い、林床に普通に見られる。夏緑性。FER：普通 FLO：極めて普通

11 ヤマドリゼンマイ *Osmunda cinnamomea*

ふたつの沢沿いの湿性地に普通。夏緑性。FER：普通

コバノイシカグマ科 DENNSTAEDTIACEAE

12 オウレンシダ *Dennstaedtia wolfordii*

岩手県では比較的普通に見られ、石灰岩地帯にとくに多い。夏緑性。森林公園では南沢の源頭部付近のほか、数か所で確認した。FER：普通 FLO：普通

13 ワラビ *Pteridium aquilinum*

乾燥地に普通のシダであるが、森林公園内ではあまり多くない。林下にもま見られる。夏緑性。FER：普通 FLO：ごく普通

チャセンシダ科 ASPLENIACEAE

14 コタニワタリ *Phyllitis scolopendrium*

岩手県盛岡農林事務所（1983）に記録がある。常緑性。FER：普通 FLO：普通

15 トラノオシダ *Asplenium incisum*

住宅地の石垣などに普通に見られるが、森林公園では県立大学寄りの林床で1株発見したのみ

である。常緑性。森林公園初記録。FER：普通 FLO：極めて普通

シシガシラ科 BLECHNACEAE

16 シシガシラ *Blechnum niponicum*

岩手県では林下に普通に見られるシダであるが、森林公園、野鳥観察の森ともあまり多くない。常緑性。FER：普通 FLO：ごく普通

オシダ科 DRYOPTERIDACEAE

17 ヤブソテツ *Cyrtomium fortunei*

2012年5月に南沢の堰堤上流部で18株が疎らな群落を形成して生育しているのを確認した。常緑性。森林公園初記録。FER：やや稀 FLO：ややまれ

18 ジュウモンジシダ *Polystichum tripterum*

林下に普通に見られる。沢沿いにはとくに多い。夏緑性。FER：普通 FLO：ごく普遍的

19 サカゲイノデ *Polystichum retroso-paleaceum*

林下に普通に見られる。植物体が大きいため、オシダとともによく目立つシダである。夏緑性。FER：普通

20 ホソバナライシダ *Arachniodes borealis*

かつてはナライシダと分類されていたが、近年、ホソバナライシダとナングクナライシダに分けられた。北日本のものがホソバナライシダである。森林公園、野鳥観察の森ともに、普通に見られる。夏緑性。森林公園初記録。FER：普通 FLO：ナライシダ 普通

21 リョウメンシダ *Arachniodes standishii*

おもに沢沿いに生育する大きなシダ。常緑性。FER：普通 FLO：普通

22 タニヘゴ *Dryopteris tokyoensis*

森林公園の沢沿いを中心に普通に生育しており、直立した長い葉がよく目立つ。夏緑性。鈴木(1993)と岩手植物の会(1970)のいずれもが岩手県ではやや稀であるとしているが、岩手県内各地の湿地に普通に見られるシダ植物である。FER：やや稀 FLO：ややまれ

23 ミヤマベニシダ *Dryopteris monticola*

南沢周辺の数か所に群生して生育している。夏緑性。森林公園初記録。FER：普通 FLO：極めて普通

24 オシダ *Dryopteris crassirhizoma*

森林公園、野鳥観察の森のシダ植物のなかではもっとも普通。大型のシダ植物でよく目立つ。夏緑性。FER：普通 FLO：普通

25 オクマワラビ *Dryopteris uniformis*

防雪林内で1株を確認した。常緑性。森林公園初記録。FER：やや稀 FLO：まれ

26 ミヤマイタチシダ *Dryopteris sabaei*

南沢周辺に生育しているがあまり多くない。常緑性。森林公園初記録。FER：普通 FLO：やや普通

27 ヤマイタチシダ *Dryopteris bissetiana*

南沢で1株を確認したのみである。常緑性。森林公園初記録。FER：稀 FLO：普通

### ヒメシダ科 THELYPTERIDACEAE

28 ミゾシダ *Stegnogramma pozoi*

沢沿いを中心に、広く生育している。夏緑性。FER：普通 FLO：普通

29 ヒメシダ *Thelypteris palustris*

調査地内では路傍や向陽地を中心に広い範囲に生育しているが、植物体が小さいためあまり目立たない。夏緑性。FER：普通 FLO：ごく普通

30 ハリガネワラビ *Thelypteris japonica*

沢沿いの林下に見られるが、あまり多くない。夏緑性。森林公園初記録。FER：ハリガネワラビはやや稀、変種のイワハリガネワラビは普通 FLO：ハリガネワラビはやや普通、イワハリガネワラビはまれ

### イワデンダ科 WOODSIACEAE

31 クサソテツ *Matteuccia struthiopteris*

東北地方では、山菜の「こごみ」として人気があるが、森林公園、野鳥観察の森ともにあまり多くない。夏緑性。FER：普通 FLO：ごく普通

32 イヌガンソク *Onoclea orientalis*

大型のシダ。沢沿いに見られる。秋、ほかのシ

ダ植物に先がけて、栄養葉が黄化・枯死する。

FER：普通 FLO：普通

33 コウヤワラビ *Onoclea sensibilis*

普通のシダであるが、森林公園内にはほとんどない。南沢支流の堰堤近くで確認した。なお、県立大学の調整池の周囲にも生育している。夏緑性。

FER：普通 FLO：極めて普通

34 ヘビノネゴザ *Athyrium yokoscense*

沢沿いに普通に見られる。夏緑性。FER：稀 FLO：普通

35 エゾメシダ *Athyrium melanoplepis*

ネイチャーセンター付近の路傍で2株確認したほか、南沢の支流でも1株を確認している。夏緑性。森林公園初記録。FER：稀 FLO：まれ

36 サトメシダ *Athyrium deltoideifrons*

森林公園の沢沿いに普通。夏緑性。森林公園初記録。FER：普通 FLO：普通

37 ヤマイヌワラビ *Athyrium vidalii*

森林公園、野鳥観察の森とも普通に見られる。とくに沢沿いに多い。夏緑性。FER：普通 FLO：普通

38 イヌワラビ *Athyrium nipponicum*

森林公園、野鳥観察の森に生育するが、それほど多くはない。夏緑性。FER：普通 FLO：普通

39 イッボンワラビ *Cornopteris crenulatoserrulata*

森林公園内の1か所で数本の群がりを発見した。生育していた林床が刈り払いの対象となっているため2012年には消失してしまった。オオミヤマイヌワラビの別名あり。夏緑性。森林公園初記録。FER：普通 FLO：ややまれ

40 ハクモウイノデ *Deparia pycnosora* var. *albosquamata*

森林公園の沢沿いに少数が生育している。夏緑性。森林公園初記録。FER：やや稀 FLO：普通

41 ホソバシケシダ *Deparia conilii*

森林公園、野鳥観察の森に広く群生しており、よく目立つ。夏緑性。FER：普通 FLO：普通

42 シケシダ *Deparia japonica*

森林公園、野鳥観察の森に広く生育する。夏緑性。



森林公園初記録。FER：普通 FLO：普通

43 キヨタキシダ *Diplazium squamigerum*

森林公園の南沢支流の湿性地で6株発見した。夏緑性。森林公園初記録。FER：やや稀 FLO：やや普通

ウラボシ科 POLYPODIACEAE

44 ミヤマノキシノブ *Lepisorus ussuriensis*

野鳥観察の森でコナラとエドヒガンの大径木の樹幹に着生していたものを岩手県滝沢森林公園ネイチャーセンターの斉藤友彦氏が発見した。常緑性。森林公園初記録。FER：やや稀 FLO：ややまれ

45 オシャグジデンド *Polypodium fauriei*

斉藤友彦氏と上記ミヤマノキシノブを確認しに行ったところ、ミヤマノキシノブと同一のコナラの樹幹に着生しているのを発見した。冬緑性。森林公園初記録。FER：やや稀

【謝辞】

岩手県滝沢森林公園ネイチャーセンターの斉藤友彦氏にはミヤマノキシノブの生育地を案内していただいた。2名の査読者には有益なご指摘を受けた。記して、感謝したい。

【文献】

- 平塚明・相津志穂美・島田直明（2004）岩手県滝沢森林公園の植物相。総合政策第5巻：299-311。  
岩手県（2001）岩手県野生生物目録。岩手県生活環境部自然保護課  
岩手県盛岡農林事務所（1983）滝沢生活環境保全林整備調査委託事業報告書。岩手県  
岩槻邦男（1992）『日本の野生植物・シダ』平凡社  
岩手植物の会（1970）『岩手県植物誌』岩手植物の会  
鈴木實（1993）岩手のシダ植物。岩手植物の会創立30周年記念誌『なんぶそう』岩手植物の会  
滝沢村教育委員会（2006）滝沢村野生生物分布調査報告書。岩手県滝沢村教育委員会

写真 森林公園初記録のシダ植物 (括弧内は撮影日)



クラマゴケ (2008/05/30)



ヒロハハナヤスリ (2007/05/23)



ナツノハナワラビ (2011/06/03)



ナガホノナツノハナワラビ (2012/09/20)



トラノオシダ (2010/11/19)



ヤブソテツ (2012/07/04)



ホソバナライシダ (2008/05/30)



ミヤマベニシダ (2012/05/11)



オクマワラビ (2010/11/19)



ミヤマイトチシダ (2010/10/01)



ヤマイタチシダ (2012/10/26)



ハリガネワラビ (2012/10/01)



エゾメシダ (2011/06/15)



サトメシダ (2010/10/01)



イッポンワラビ (2011/06/03)

岩手県滝沢森林公園のシダ植物



ハクモウイノデ (2011/06/03)



シケシダ (2010/09/29)



キヨタキシダ (2011/06/09)



ミヤマノキシノブ (2012/10/01)



オシャグジデンダ (2012/10/01)

# Ferns and Fern Allies of Takizawa Forest Park, Iwate Prefecture

Yoshio KANEKO and Noriko TAKAHASHI

**Abstract** Ferns and fern allies were studied in the Takizawa Forest Park (62 ha) adjacent to Iwate Prefectural University. We identified 43 species, 20 of which were newly recorded species. Since two other species had been recorded by previous researchers, the Takizawa Forest Park has a total of 45 species of ferns and fern allies. The species considered rare in Iwate Prefecture but found in the study area included *Selaginella remotifolia*, *Ophioglossum vulgatum*, *Botrychium strictum*, *Cyrtomium fortunei*, *Dryopteris tokyoensis*, *Dryopteris uniformis*, *Athyrium melanoplepis* and *Lepisorus ussuriensis*. Based on the vegetational coverage and frequency, it was concluded that the most representative species in the Takizawa Forest Park was *Dryopteris crassirhizoma*, followed by *Athyrium vidalii*, *Polystichum tripterum*, *Osmunda japonica*, *Polystichum retroso-paleaceum* and *Arachniodes borealis*. Most of these species preferred wet areas close to watercourses.

**Keywords** Takizawa Forest Park, ferns and fern allies, floral list, status of growth